

「実効性のある避難計画（暫定版）」について

I 長岡市長が池田原子力規制庁長官に、避難計画や計画の原則を

説明（平成 24 年 11 月 5 日）

1、PAZ（原発 5km 圏）は、放射性物質が放出される前に即時避難し、次に実測や予測に基づき UPZ（5km～30 km 圏）が段階避難となる。その際、風向きを考慮し、直角方向など放射性物質を避ける方向への避難を原則とした。

（考察）

- ① 即時避難（柏崎市・刈羽村の 5 km 圏）と段階避難（長岡市など 30 km 圏）の住民が、同時に避難を開始したとしても、多くの場合、錯綜しないことが確認できる。
- ② 風向きを考慮することで、複数の自治体間の調整が比較的容易になることが明確になり、それぞれの市町村の独自の避難計画を立案しやすくなる
- ③ 直角方向への避難であれば、とりあえずの危機を回避するためには、比較的短い距離で可能となることが確認できる

→ 概ね県内の近距離避難となり住民の安心感につながる

2、避難計画を、とりあえず危機を脱出することを主たる目的とした「一次避難」と長期間の避難「二次避難」と区別し、一次避難を重視した

（考察）

- ④ とりあえずの危機を脱出するための一次避難という概念を導入することにより、混乱時における避難先の確保が比較的近距離内で可能になる
- ⑤ 近距離であるがゆえに、県内の市町村間の調整で可能になるケースが多い
- ⑥ 遠方への避難に比較して、近距離であれば心理的に安心感が得られる

3、UPZ においては、一定期間の屋内退避を前提とし、時間をかけた計画的避難を行うこととした

（考察）

- ⑦ UPZ の定義から当然な概念と考えられるが、現実には、住民に対し強力で徹底しないと受け入れられにくい概念であろう。
- ⑧ 避難には相当な時間がかかるという現実を見据えれば、この原則を徹底しておくことが絶対条件となる。

Ⅱ 原子力規制委員会委員長定例会見（平成 24 年 11 月 14 日）

質問概要

委員長は、柏崎刈羽原発で 40 km の拡散予測が出た時に、7 基全部がそういう事故を起すとは考えられないとおっしゃっていた。その前で食いとめるという意味でおっしゃっていたことなのではないでしょうか。

◎ 田中委員長

そうではなくて、今までも柏崎刈羽 7 基が全部フル稼働、一遍に 7 基動いていることはなかったですねという意味で申し上げました。大抵は、2 つぐらいは定検に入っていて順番に多分やっていると思いますので、そういう意味で申し上げたのですが、今回は 7 基全部がフル稼働で福島と同じように出るということだから、ああいう結果になったけれども、そういうことではないと。

ただ、新潟の方、長岡の市長さんから送られてきた防災計画を見ると、かなりよく理解して計画を練っていただいて、私どもの方がちょっと遅れをとっているかなと思うくらい立派なものができ上がりつつあるので、私は大変喜んでいます。

Ⅲ 現在の対応（市町村、新潟県）

市町村は、「実効性のある避難計画（暫定版）」を活かしながら、地域防災計画や資料等の作成を進めている。

新潟県は、広域調整等を実施するため、11月28日、国、県、市町村、関係機関等と合同で「原子力防災の検討会」を開催し、「実効性のある避難計画（暫定版）」等に基づき検討を進めている。

パターン 5 (ESE)

佐渡・粟島方面

佐渡市

新潟・村上方面

北区

東区

中央区

江南区

西区

秋葉区

南区

0.35

0.47

0.02

2.5
万人

30km

5km

弥彦村

燕市

三合

出雲崎町

見

長岡市

柏崎市

小千谷市

魚沼市

上越市

0.5

糸魚川市

1.17

十日町市

0.33

南魚沼市

0.81

糸魚川・妙高方面

妙高市

長野県

湯沢・魚沼方面

津南町

湯沢町

群馬県

